

眠りッチャ

【一般地仕様】  
RAT-2244X

【耐塩害仕様】  
RAT-2244XE1

形式

寝室用パネルエアコン  
据 付 工 事 説 明 書

冷媒  
R32

よくある施工不良を防止するためのポイント!!

ドレン排水工事不良による  
水漏れ

ドレンホースが水に浸かっていること

配管の接続不良による  
ガス漏れ

接続配管の中心を合わさずにフレアナットを強引に締付けていないこと

電圧間違えによる  
機器破損

電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずテスターで電圧を確認すること

内外接続電線の誤配線による  
工事時間の遅延

室内外の同じ端子番号に同じ色の線がしっかりとし差し込まれていること

配管穴のすきまによる  
雨・風や動物・昆虫などの侵入

すきまが開いていないこと

安全上の注意(必ずお守りください)

- 据付工事を行う前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく据付けてください。
- 本書では、人への危害や財産への損害を未然に防止するため、安全に関する重要な内容を次のように分類して記載していますので、必ずお守りください。

|           |                          |           |                               |
|-----------|--------------------------|-----------|-------------------------------|
| <b>警告</b> | 人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容です。 | <b>注意</b> | 人が軽傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容です。 |
|-----------|--------------------------|-----------|-------------------------------|

●お守りいただく内容を、次の図記号で説明しています。

|  |                      |  |                        |
|--|----------------------|--|------------------------|
|  | 禁止<br>「してはいいない」内容です。 |  | 実行<br>「しなければならない」内容です。 |
|--|----------------------|--|------------------------|

- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認すると共に、取扱説明書に従ってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。
- この据付工事説明書は工事終了後、取扱説明書と共に必ずお客様にお渡しください。

**警告**

**部材・工具**

- 据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。  
当社指定部品を使用しないと、火災・感電・水漏れ・ガス漏れ・機器の落下の原因になります。
- 据付工事はR32またはR410A用に製造された専用工具・配管部材を使用する。  
専用の配管部材を使用しないと破裂やガス漏れの原因になります。
- フレアナットはトルクレンチを使用して締付ける。  
フレアナットを締付けすぎると、長期間経過後フレアナットが割れガス漏れの原因になります。
- 接続配管はJIS H 3300「銅及び銅合金継目無管」のC1220のりん脱酸銅を使用し、配管接続を確実に行う。  
ガス漏れの原因になります。

**設置場所**

- 室外機はベランダの手すり近くに設置しない。  
お子さまが室外機に登り、手すりを乗り越えて転落する原因になります。
- 据付けは重量に充分耐えられる場所で確実に行う。  
強度不足や取付けが不完全な場合は、機器の落下によりけがの原因になります。

**工 事**

- 据付けは買い求めの販売店または専門業者に依頼する。  
お客様ご自身で据付工事をされ不備があると、火災・感電・水漏れ・ガス漏れ・機器の落下の原因になります。
- 据付工事はこの据付工事説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると火災・感電・水漏れ・ガス漏れ・機器の落下の原因になります。
- 電気工事は電気工士の資格があるかたが「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると火災や感電の原因になります。
- ポンプダウン作業では、接続配管をはずす前に圧縮機を停止する。  
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- アース工事を確実に行う。  
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などに接続しないでください。アースが不完全な場合は故障や漏電のときに感電の原因になります。

**電源・配線**

- 配線の加工、途中接続、延長コードの使用、また電源コードを束ねたり、たこ足配線はしない。  
接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災や感電の原因になります。
- 電源コードの届く範囲にコンセントがないときは、電力会社の指定工事に依頼し、所定の電気配線を行う。  
絶対に電源コードを切断して延長しないでください。火災や感電の原因になります。
- 配線は所定の内外接続電線を使用して確実に接続し、端子台接続部に内外接続電線の外力が伝わらないように確実に固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、火災や発熱の原因になります。  
また、電源コードおよび内外接続電線の中間接続は行わないでください。
- 電源コードおよび内外接続電線は必ず単線を使用する。  
より線は絶対に使用しないでください。電源供給や信号伝達ができず作動不良の原因になります。
- 内外接続電線はコード止め金具で確実に固定する。  
接続が不完全な場合は、火災や端子台接続部の発熱・感電の原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグとコンセントにほこりの付着・つまり・がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。  
ほこりの付着・つまり・がたつきがあると、火災や感電の原因になります。  
コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。

**冷媒ガス**

- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以外の空気などを混入させない。  
冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用(補充・入替え)しない。  
機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気する。  
冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。  
冷媒ガスが室内に漏れてファンヒーター・ストーブ・こころなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

**注意**

**設置場所**

- 油煙の多い場所、油成分が浮遊している場所、可燃性ガス・腐食性ガス・金属製のほこりがある場所には設置しない。  
万が一ガスが漏れて機器の周囲にたまると、火災・故障・腐食の原因になることがあります。
- 機器は小動物のすみかになるような場所に設置しない。  
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると発火・発煙・故障の原因になることがあります。またお客様に周囲をきれいに保つことをお願いしてください。

**用 途**

- 他の目的に使用しない  
この機器は一般家庭の寝室でご使用いただくために製造されたものです。  
食品・精密機器・美術品の保存や動植物の生育など特殊な用途に使用すると、思わぬ事故の原因になることがあります。

**工 事**

- ドレン排水配管をアンモニアガスやイオウ系ガスの発生する下水槽や浄化槽などに直接入れない。  
下水ガスが逆流し配管や機器が著しく腐食して、水漏れや故障の原因になることがあります。

**工 事**

- 機器の吸込口やアルミフィンに触らない。  
けがの原因になることがあります。
- ドレン排水工事は据付工事説明書に従って確実に排水するように配管する。  
不確実な場合は室内に漏水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
- 作業時は保護具を着用する。  
作業時は手袋などの保護具を着用してください。けがの原因になることがあります。

**電 源**

- 室外機を水気のある場所に設置する場合は漏電遮断器を取付ける。  
漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。  
水気のない場所でもできるだけ漏電遮断器を取付けてください。

●製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

付 属 品 の 確 認

|                    |                |          |                       |          |          |          |          |          |
|--------------------|----------------|----------|-----------------------|----------|----------|----------|----------|----------|
|                    |                |          |                       |          |          |          |          |          |
| リモコン               | リモコンホルダー       | 乾電池      | タッピンねじ<br>(リモコンホルダー用) | ドレンエルボ   | 角ワッシャー1  | 角ワッシャー2  | 防振ゴム1    | 防振ゴム2    |
|                    |                |          |                       |          |          |          |          |          |
| ワッシャー固定材<br>(段ボール) | パネル(大) A       | パネル(大) B | パネル(大) C              | パネル(大) D | パネル(大) E | パネル(大) F | パネル(大) G | パネル(小) H |
|                    |                |          |                       |          |          |          |          |          |
| タッピンねじ<br>(パネル用)   | 断熱材<br>(冷媒配管用) | 布カバー     |                       |          |          |          |          |          |

**別梱包品**

天井断熱材  
(パネル固定具付)

タッピンねじ  
(天井断熱材用)

ねじ断熱材  
(天井断熱材用)

**現地手配品**

水差し(1個)

吊りボルト(W3/8)(4本)

六角ナット(W3/8)(12個)

ワッシャー(W3/8)(8枚)

水差し(1個)

別売部品

- 脚防振ゴム
- アース棒
- 配管セット
  - ・接続配管
  - ・非粘着テープ
  - ・粘着テープ
  - ・サドル(ねじ付)
- ・内外接続電線  
(VVF φ 2.0mm・3心)
- ・ドレンホース
- ・断熱材
- ・配管穴ふた
- ・配管穴用パイプ
- ・パテ

室内外機の据付図

据付場所の選定

- 以下の内容を確認して、お客様の同意をえて据付けを行ってください。
- 船舶など移動するものには設置しないでください。

- 室内機**
- 室内機を充分支えられ、振動の出ない強度のある場所
  - 近くに熱や蒸気の発生がなく、吸込口や吹出口付近がふさがれない場所
  - ドレン排水が容易にでき、室外機との配管接続が容易にできる場所
  - 図の◀印の間隔があげられる場所
  - テレビ・ラジオ・無線機・蛍光灯から1m以上間隔があげられる場所
  - 工業用マシンなど高周波ノイズを発生する機器のない場所
  - リモコンを壁に固定する場合は、部屋の蛍光灯を点灯させ室内機が信号を受信できる場所
  - 吹き出した風が燃焼器具の燃焼に影響しない場所、動植物にあたらない場所
  - 油の飛まつや油煙がたちこめない場所(調理場や機械工場などは避けてください。)
  - 吹出口が火災警報器から1.5m以上離れている場所

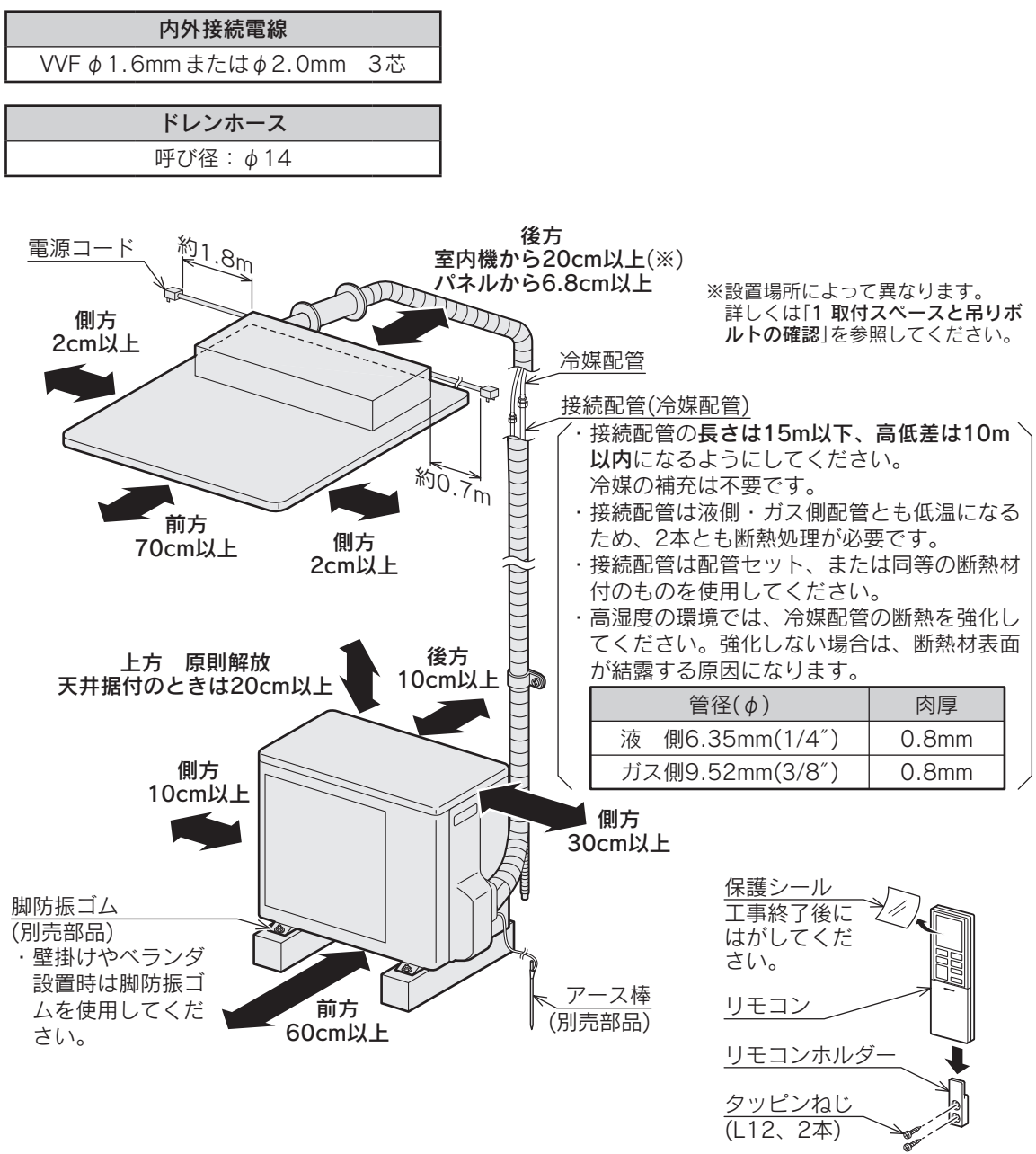
**室外機**

- 雨や直射日光があたりにくく風通しのよい場所
- 室外機の重量に充分耐える場所で振動や騒音が増大しない場所
- 吹き出した風や音が近所迷惑にならない場所
- 図の◀印の間隔があげられる場所
- 可燃性ガスが漏れるおそれのない場所
- 塩害の起きにくい場所
- 硫化ガス・アンモニア・水や油の蒸気にさらされない場所
- 積雪により室外機がふさがれない場所
- 吹き出した風が動植物にあたらない場所
- 消防法および各地域の条例などを満足する場所
- 近くに高温になるような物がない場所
- 強風があたらない場所
- 水平な場所
- 室外機の下や近くに濡れて困る物がない場所

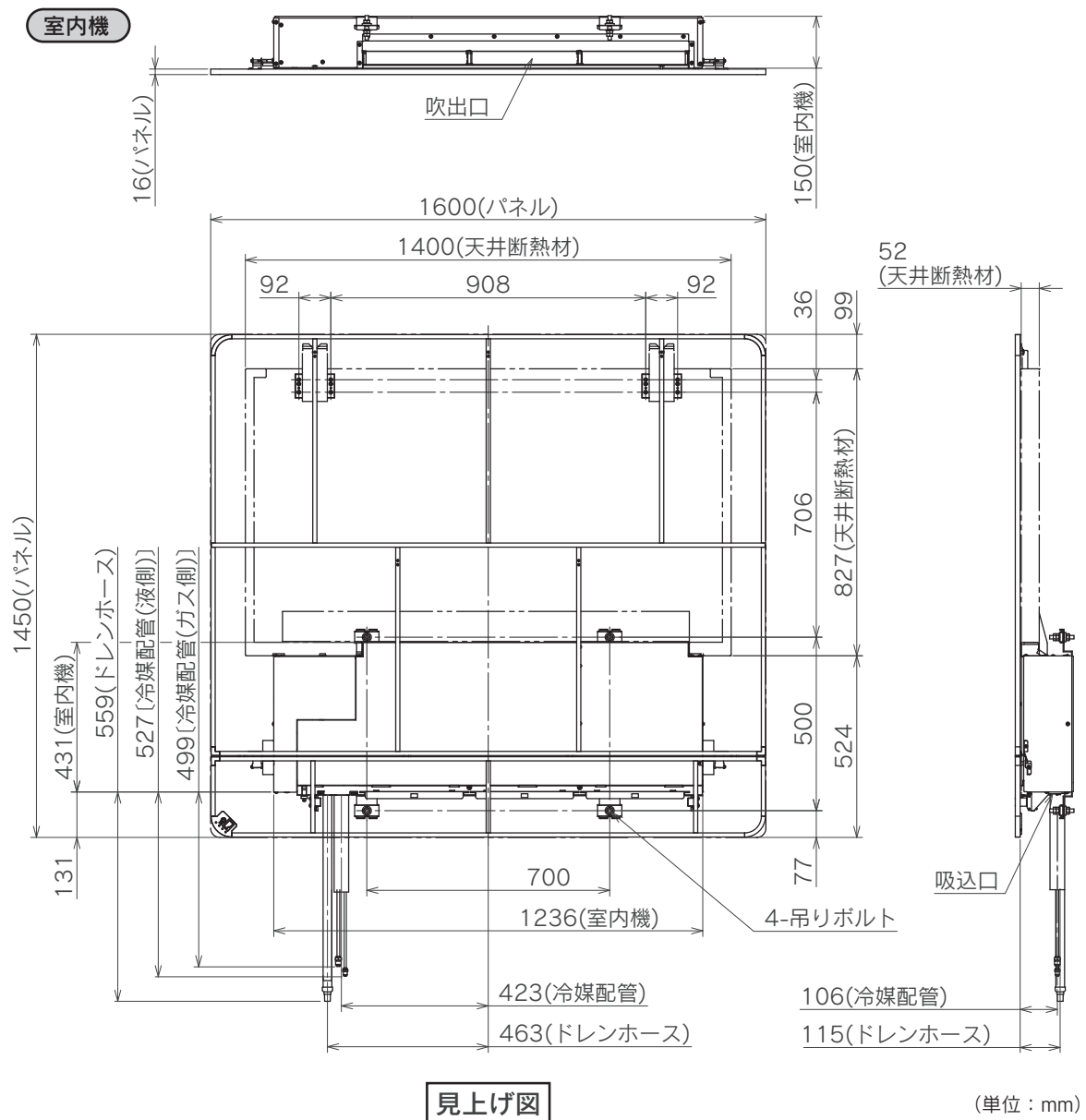
| 電 源(必ず専用回路を使用する) |            |                                                 |
|------------------|------------|-------------------------------------------------|
| 定格電圧             | コンセント定格・形状 | 漏電遮断器                                           |
| 単相100V           | 125V 15A ㉑ | 室外機を水気のある場所に設置する場合は取付ける。<br>水気がない場所でもできるだけ取付ける。 |

| 内外接続電線                  |     |
|-------------------------|-----|
| VVF φ 1.6mm または φ 2.0mm | 3 芯 |

| ドレンホース   |  |
|----------|--|
| 呼び径：φ 14 |  |



室内機取付寸法図





## 6 アース工事

### ⚠ 警告

- アース線の取付工事は「電気設備に関する技術基準」に従ってください。不備があると感電の原因になります。
- ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などにアース線を接続しないでください。

アース線 φ 1.6mm (2.0mm<sup>2</sup>) 以上

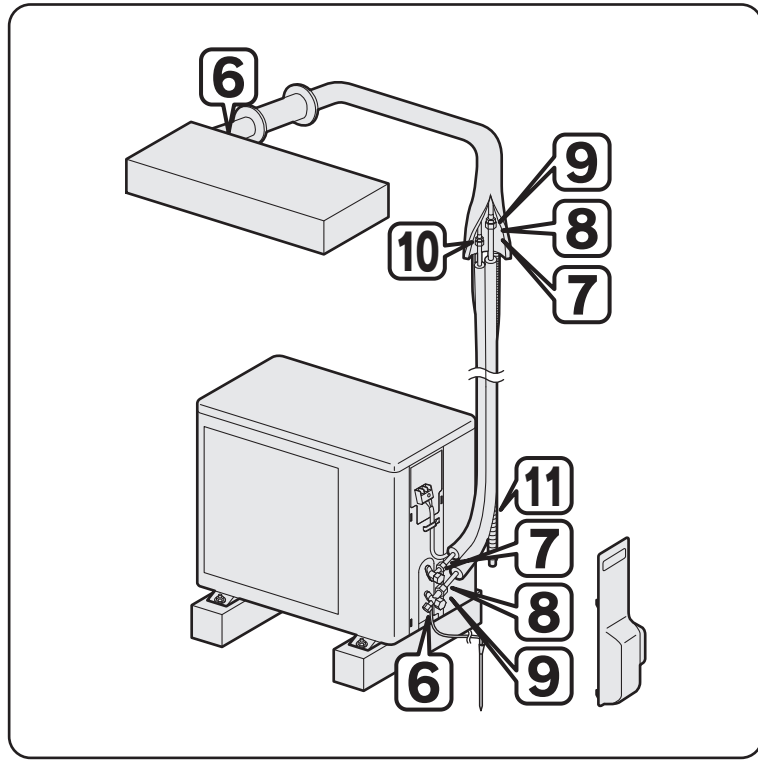
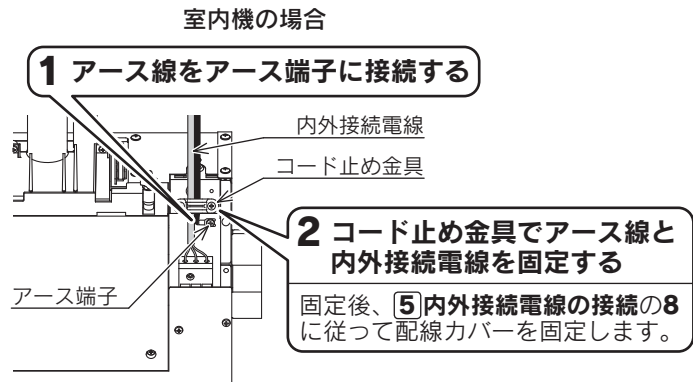
### 接地の基準

- 設置場所によって異なります。表に従ってください。

|         |                                     |
|---------|-------------------------------------|
| 水気のある場所 | 漏電遮断器を取付け、更にD種接地工事が必要です。            |
| 湿気のある場所 | D種接地工事が必要です。                        |
| 乾燥した場所  | D種接地工事は法的には除外されますが安全のため接地工事をしてください。 |

### D種接地工事

- アース線を室内機または室外機のどちらかのアース端子に図のように接続してください。
- 電気工事士のしかたが行ってください。
- 接地抵抗は必ず 100 Ω 以下にしてください。
- ただし、漏電遮断器を取付ける場合は 500 Ω 以下であることを確認してください。
- 特にこの機器は周波数変換器(インバータ)を内蔵していますので、静電気による帯電およびノイズを吸収するために、アース工事を行ってください。



## 7 配管の切断とフレア加工

### 1 バイブカッターで接続配管を切断する

### 2 リーマで内側のバリ取りをする

### 3 フレアナットを接続配管に通す

切粉が配管内に入らないように配管を下向きに行います。

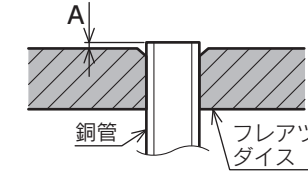
### 4 フレア加工をする

R32またはR410A専用のフレアツールの使用をおすすめしますが、従来(R22用)の工具でも表の通りに銅管の出し代を調整すれば使用できます。

| 出し代            | リジット(クラッチ式)の場合    |               | インベリアル(ウイングナット式)の場合 |
|----------------|-------------------|---------------|---------------------|
|                | R32またはR410A用工具使用時 | 従来(R22用)工具使用時 |                     |
| A寸法<br>(単位:mm) | 0~0.5             | 1.0~1.5       | 1.5~2.0             |

※出し代の寸法調整は出し代調整用銅管ゲージ(フレアアタッチメント)を使用すると便利です。

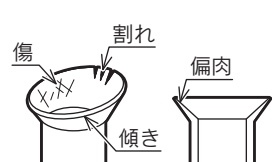
### ●銅管出し代：A



### ○正しい加工

内面に光沢があり凹凸がない

### ✕誤った加工



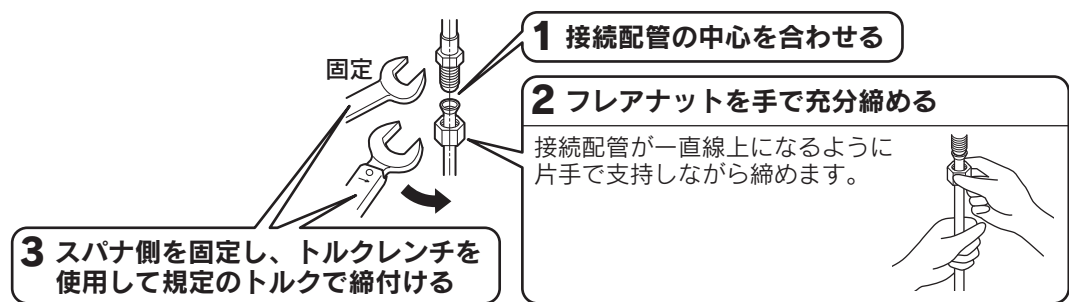
## 8 配管の接続

- ガス側配管(太い管)から接続すると簡単にできます。

- 配管の曲げ加工は、スプリングバンダーなどを使用して配管をつぶさないようにしてください。また、室外機側はできるだけ曲げ半径を大きくしてください。
- 配管の中にゴミ・砂などの異物や雨水などが入らないように特に注意してください。
- 配管の中心をよく合わせず強引にフレアナットを締付けるとねじ山を破損し、ガス漏れの原因になることがあります。
- フレアナットは、必ずトルクレンチを使用して規定のトルクで確実に締付けてください。
- トルクが強すぎるとナットが割れるなど強度低下や応力腐食割れの原因になることがあります。弱すぎるとガス漏れの原因になることがあります。
- 接続に不備があるとガス漏れだけでなく、冷凍サイクル故障の原因になることがあります。

### 室内機

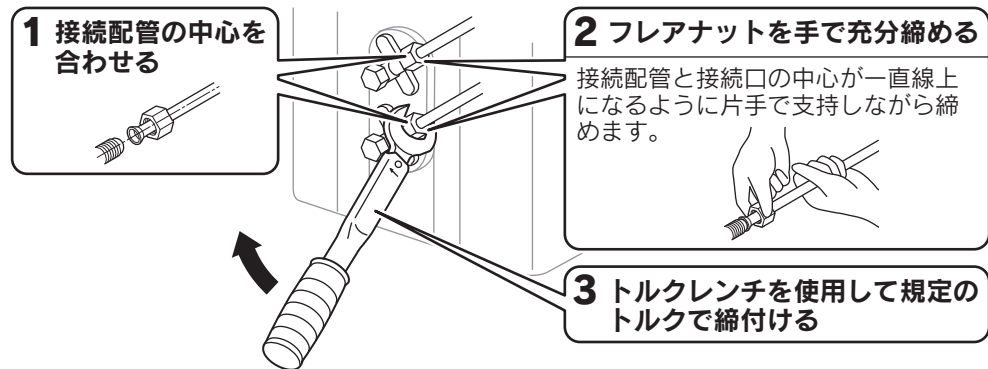
- 室内機には冷媒ガスが入っていないので、フレアナットをはずしても「ブシュッ」という音はしません。



### フレアナット締付トルク

| 管径(φ)            | 締付トルク                  |
|------------------|------------------------|
| 液 側6.35mm (1/4") | 16±2N・m (163±20kgf・cm) |
| ガス側9.52mm (3/8") | 38±4N・m (387±40kgf・cm) |

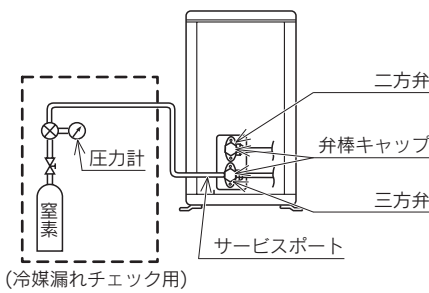
### 室外機



### ■気密試験について

- 気密試験を行う場合は、以下に従ってください。

1. 室外機の二方弁と三方弁は全開のまま、窒素ガスを使用して冷媒漏れチェック(気密試験)を行い、圧力低下がないことを確認する。  
気密試験は、高圧部の設計圧力(4.28MPa)まで昇圧させてください。
2. 気密試験後は真空ポンプを使用して窒素を回収する。



## 10 配管接続部の断熱

### 1 断熱材の長さを調整する

冷媒配管の断熱材と接続配管の断熱材が5~10mm重なるようにします。

### 2 断熱材を突き合わせる

突き合わせ部に若干力加わり、すきまができないようにします。  
断熱材が重ならないようにしてください。

### 3 粘着テープを巻いて固定する

突き合わせ部に約10周巻き、断熱材が割れている部分は3箇所巻きます。  
粘着テープを強く巻きすぎると断熱材がづぶれて断熱効果が失われますので軽く巻いてください。

### 4 配管接続部を付属の断熱材で巻く

室内側で配管を接続している場合のみ、5・6を行う。

### 5 非粘着テープを巻く

粘着テープを巻いた箇所全体に巻き付けます。

### 6 非粘着テープを粘着テープで固定する

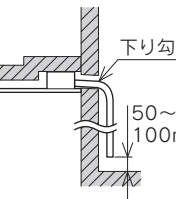
両端を約5周巻きます。

## 11 ドレン排水工事

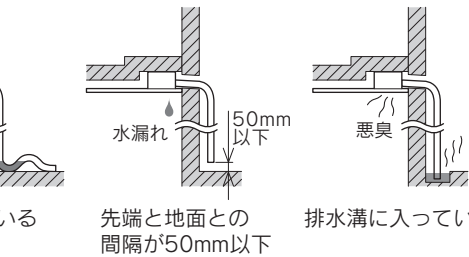
### ⚠ 注意

- ドレンホースは必ず下り勾配にして確実に排水するように配管してください。  
結露水が家財などを濡らす原因になることがあります。
- 断熱していないドレンホースやその接続部が室内にある場合は必ず断熱してください。

### ○正しい配管



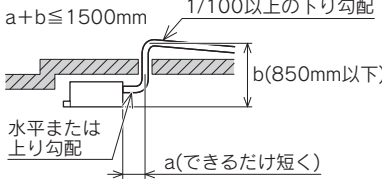
### ✕誤った配管



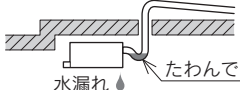
### ドレン配管を上に出せる場合

- ドレン配管は必ず屋外に向かって下り勾配(1/100以上)にして確実に排水するように配管してください。  
また、トラップができないようにしてください。  
配管がつまり機器の故障や水漏れの原因になります。  
接続部は接着剤で漏れないように接着してください。
- 屋内部は結露防止のため配管を断熱材で断熱してください。  
通気のない天井裏など相対湿度が80%を超えると予想される場所は、断熱材の外皮表面に結露する場合があります。  
設置環境に応じて断熱材を選んでください。
- ポンプ揚程は室内機底面から850mmです。
- ドレン配管は室内機からできるだけ短い距離で立ち上げてください。  
立ち上げまでの距離(a)が必要な場合は、図の寸法にしてください。

### ○正しい配管



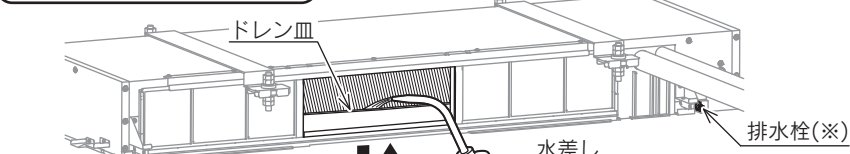
### ✕誤った配管



### 排水チェック

- 排水が室外に確実に排水されることを確認してください。

### 1 電源プラグを差し込む



### 2 エアフィルタをはずす

エアフィルタを下に引き出します。

### 3 ドレン皿に1000CCの水をゆっくり入れる

水差し(現地手配)を使って入れます。  
配管接続部から漏れがないこと、確実に排水されることを確認してください。

### 4 エアフィルタを元通りに取付ける

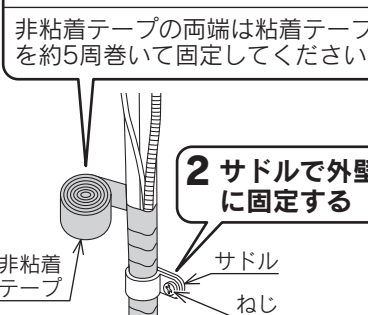
※排水栓を緩めるとドレン皿にたまったドレン水を排水できます。  
緩んでいると水漏れしますので、緩んでいないことを確認してください。

### 5 電源プラグを抜く

## 12 仕上げ

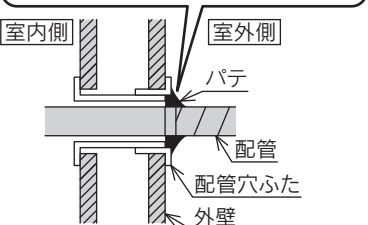
### 配管

**1 非粘着テープを巻く場合は下から上へ巻く**  
非粘着テープの両端は粘着テープを約5周巻いて固定してください。

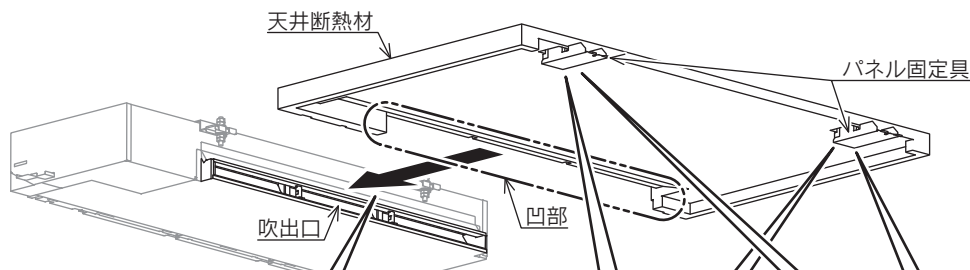


### 壁貫通部

**配管穴ふたと配管のすきまをパテで完全にふさぐ**



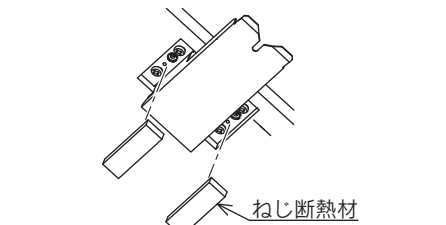
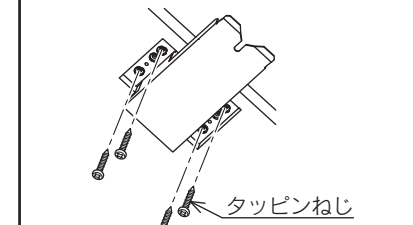
## 13 天井断熱材の固定



**1 天井断熱材を室内機の吹出口に載せる**  
天井断熱材の凹部を室内機の吹出口に載せて奥にあたるまで押し込みます。

**2 天井断熱材を天井に固定する**  
天井断熱材のパネル固定具(2個)をタッピンねじ(L40、8本)で天井に固定します。

**3 ねじ断熱材を貼る**  
ねじ止めた箇所(4箇所)にねじ断熱材を貼り付けます。貼り付けないと結露の原因になります。

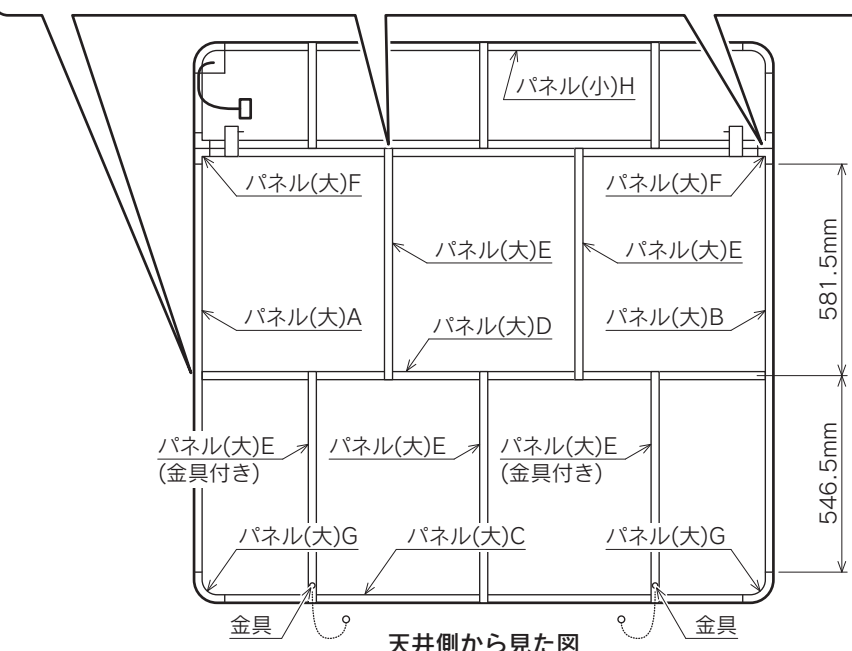
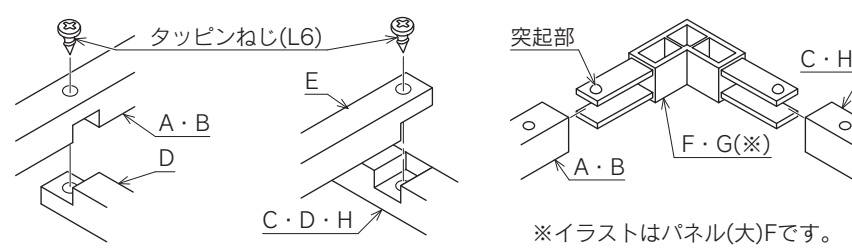


## 14 パネルの取付け

### パネルの組立て

#### 1 パネルを組み立てる

イラストと同じ向きになるように床に並べて組み立ててください。



#### 2 パネルに布カバーをかぶせる

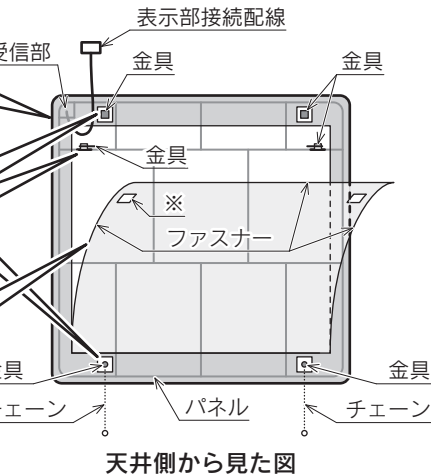
パネルを折った状態で布カバーを四隅からかぶせます。

#### 3 パネルの金具(6箇所)・チェーン(2箇所)・表示部接続配線を布カバーの穴から出す

#### 4 ファスナー(3箇所)を閉じる

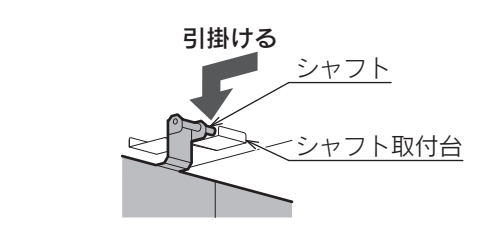
布カバーの角のシワを整えてください。

※表示部接続配線はこの穴から出してください。強く引っ張ると受信部から表示部接続配線が抜けることがあります。



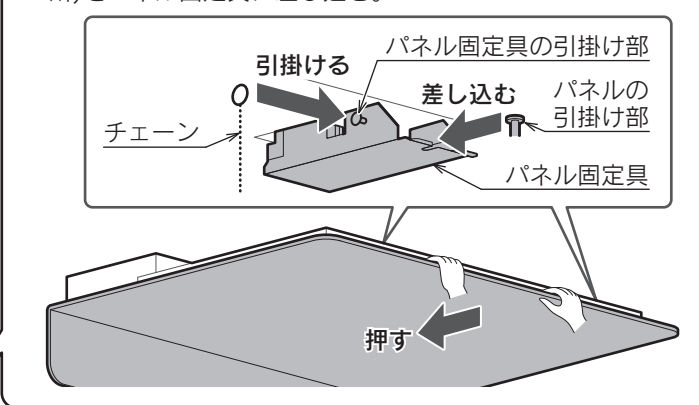
### パネルの取付

#### 1 パネルのシャフト(2箇所)を室内機のシャフト取付台に引掛ける

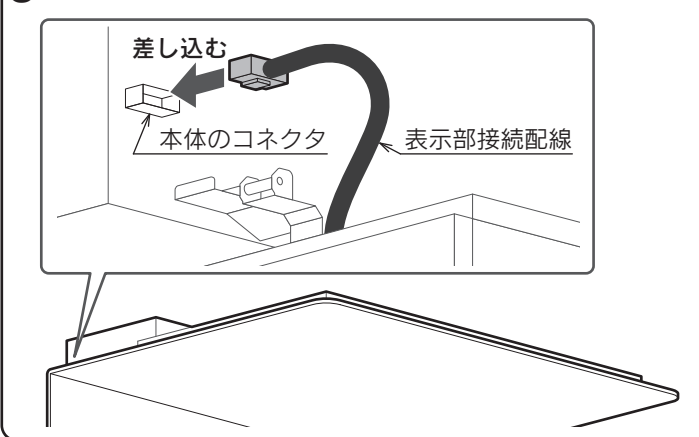


#### 2 パネル(大)を閉じる

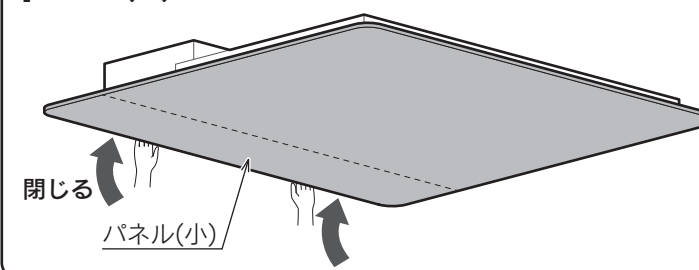
(1)パネル(大)のチェーン先端の輪をパネル固定具の引掛け部(2箇所)に引掛ける。  
(2)パネル(大)を閉じ、矢印の方向に押してパネルの引掛け部(2箇所)をパネル固定具に差し込む。



#### 3 表示部接続配線のコネクタを本体のコネクタに差し込む



#### 4 パネル(小)を閉じる



## 15 工事のチェックと試運転

**工事のチェック項目** □の中に✓印を入れてチェックしてください。

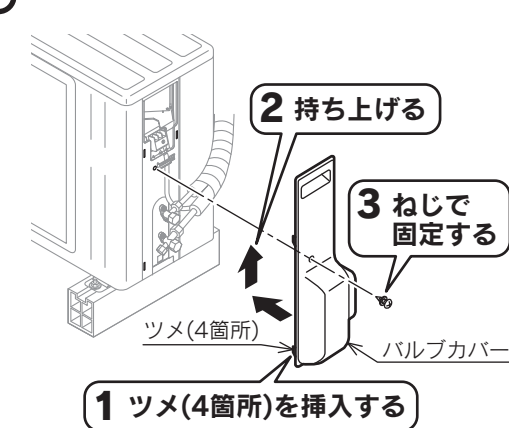
試運転前に確認してください。

- ☐ 据付場所の選定条件を満たしていますか？
- ☐ 電源電圧は規定通りですか？  
(電源プラグを差し込む前に、コンセントの電圧を確認してください。)
- ☐ 内外接続電線の接続は確実ですか？
- ☐ 内外接続電線の端子番号は合っていますか？
- ☐ 配管接続部は断熱していますか？
- ☐ アース工事(D種接地工事)は行われていますか？
- ☐ 二方弁・三方弁は全開になっていますか？
- ☐ 配管接続部のガス漏れ検査は行いましたか？
- ☐ 二方弁・三方弁・サービスポートのキャップが確実に閉まっていますか？
- ☐ 室内機の固定は確実ですか？
- ☐ 表示部接続配線の接続は確実ですか？  
(接続がはずれている場合は、リモコンの信号が受信できません。表示部接続配線のコネクタは、本体側面と布カバー内部の受信部付近にあります。)

試運転を開始してください。

- お客様に操作方法を取扱説明書でよく説明してください。
- ☐ 異常音はありませんか？
- ☐ 温度調節はできますか？
- ☐ ドレン皿の水がスムーズに流れていますか？

## 16 バルブカバーの取付け



## 機能設定内容の変更

### 変更前の準備

- 室内機の電源プラグをコンセントから抜いて10秒間以上経過した後、再度差し込みます。
- リモコンに乾電池を入れます。(乾電池が入っている場合は、一度乾電池をはずして停止スイッチを3、4回押した後、再度入れ直してください。)

運転や現在時刻を設定する前に機能設定内容の変更を行ってください。

### 機能設定内容の変更

#### 1 温度調節スイッチ▼と時刻設定スイッチを同時に約5秒間押す

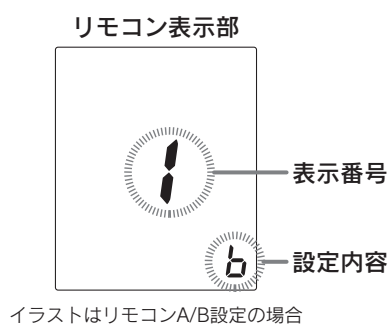
#### 4 リモコンを室内機に向けて、風量スイッチを押す

「ビッ」とブザーが鳴り変更が確定して、通常の表示に戻ります。

#### 2 温度調節スイッチ▼▲を押して変更したい項目の表示番号を選択する

#### 3 すずむ・もどるスイッチを押して設定内容を変更する

2・3を繰り返して他の項目も続けて変更できます。



イラストはリモコンA/B設定の場合

機能設定内容の変更ができない場合は、「変更前の準備」からやり直してください。

| 表示番号 | 項目            | 設定内容                                                                                                                                                                                           | 初期設定 |
|------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1    | リモコンA/B設定     | 同じ部屋に室内機を2台設置した場合、1つのリモコンで2台とも作動する場合があります。室内機を同時に作動させたくない場合は、一方のリモコンと室内機を「b」に設定してください。「b」に設定したリモコンを操作すると、「b」に設定した室内機のみが作動します。(「リモコンA/B設定」は、変更しない室内機の運転を停止し、電源プラグを抜いてから行ってください。)<br>A：信号A b：信号B | A    |
| 2    | 外部運転、停電自動復帰設定 | 通電開始時または停電復旧後の通電開始時に自動的に運転を開始させたいときに設定します。<br>oF：自動的に運転を開始しない<br>1：外部運転(通電を開始すると自動的に応急運転を開始します。)<br>2：停電自動復帰(停電が復旧し通電が開始されると、自動的に停電前の設定で運転を開始します。)                                             | oF   |
| 3    | 室外機騒音優先レベル設定  | 室外機の運転音を下げたいときに選択できます。(最大能力に制限がかかります。能力が制限されるため設定した温度に達するまでに時間がかかる場合があります。)<br>St：標準 1：静音弱 2：静音中 3：静音強                                                                                         | St   |
| 4    | 暖房運転最高温度設定    | 暖房運転時の最高設定温度を選択できます。<br>St：26℃ 1：24℃ 2：28℃ 3：30℃                                                                                                                                               | St   |

※停電やリモコンの乾電池を交換しても設定内容は、記憶しています。  
※表示番号1・2・3・4以外は未使用です。

## ポンプダウン

### 警告

- 接続配管をはずす前に圧縮機を停止してください。  
空気などを吸入して冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。



この機器にはGWP(地球温暖化係数)が675のフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄などにあたってはフロン類の回収が必要です。

- 増改築・引越・修理・廃棄などで寝室用パネルエアコンを取りはずす場合は、冷媒ガスを大気中に放出しないようにポンプダウンを行い、室内機および配管内の冷媒ガスを室外機に回収してください。

#### 1 二方弁と三方弁の弁棒キャップをはずす

弁棒キャップ

#### 2 強制冷房運転を行う

室内機の応急運転スイッチを押し、「ビッ」とブザーが鳴ってから、そのまますべて5秒間押し続け、「ビッ」とブザーが鳴ったら指を離してください。  
強制冷房運転をはじめます。  
(応急運転スイッチを10秒間以上押し続けると、強制冷房運転を行いません。)

#### 3 約5分後二方弁の弁棒を六角レンチを使用して閉め、そのまま強制冷房運転を1～2分間行う

六角レンチ

#### 4 三方弁を開める

三方弁

#### 5 強制冷房運転を停止する

応急運転スイッチをもう一度押すと「ビー」とブザーが鳴って、強制冷房運転が停止します。  
(二方弁と三方弁を開めたまま長時間運転をすると故障の原因になることがあります。)